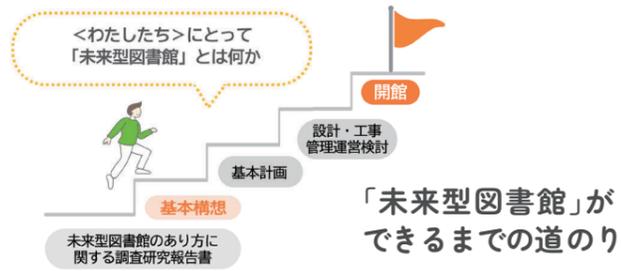




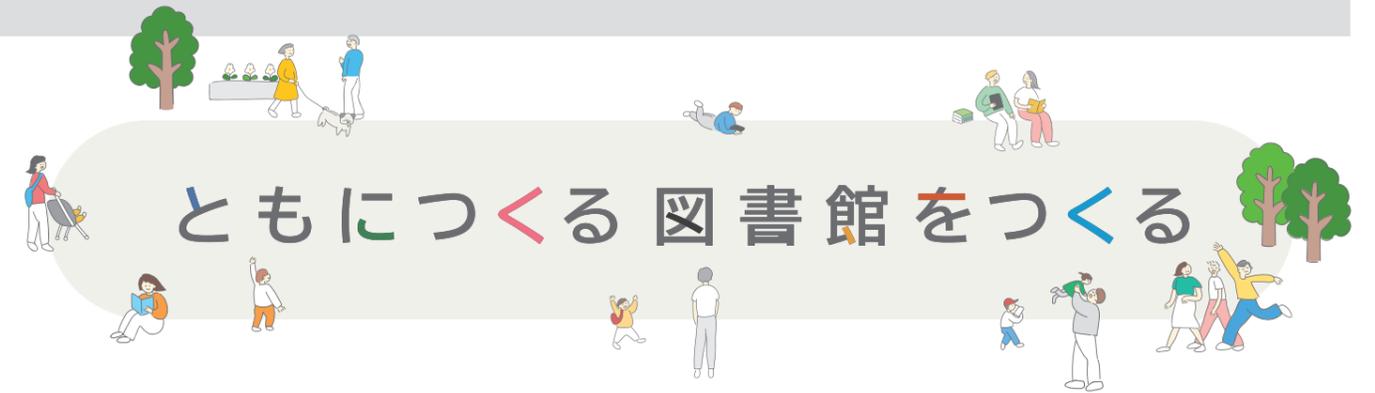
基本構想策定の目的

未来型図書館の検討・整備を進めるにあたり、目指すべき方向性を定めることを目的として、小松市未来型図書館基本構想を策定します。「わたしたちにとって未来型図書館とは何か」を言語化し、その実現のための方向性を定めていきます。



基本構想策定に向けたプロセス

未来型図書館は、そのあり方を、変わり続ける未来にわたって地域のすべての人々に開き支えていくものとして捉えます。そこで、未来型図書館の検討を進めるにあたって、「ともにつくる図書館をつくる」というテーマを設定し、みんなでつくりあげていく市民主体の施設づくりに取り組んでいきます。



絶えずつくり続けていくかたちとして、多様な立場の人との対話を通じて、ともに新しい価値を生み出していく「共創」という考え方を重視します。



ビジョン・コンセプトの位置付け

基本構想では、未来型図書館の目指すべき方向性としてビジョン・コンセプトを定めます。「未来型図書館ができることで、まちや暮らしで実現させたいあり方

(ビジョン)」、「ビジョンを実現するための具体的構想(コンセプト)」と、それぞれの位置付けを整理し、まとめました。

検討にあたっての4つのポイント

- ① 魅力や良さを活かし、まちを元気な状態にしていく
- ② 自らの手で社会のあり方や関係性をよりよくつくっていく
- ③ 人や情報がつながることで未来にわたって生き生きとした循環を生み出す
- ④ すべての人にひらかれ、その営みを支えていく

未来型図書館のビジョン

こまつを編む。
こまつを巡らす。



— まちの「情報」・まちの「つながり」・まちの「とき」 —

編む— まちの中にある多様な資源を結びつけ、価値を生み出しながら、小松の人々が自らの手で、小松というまちを編み上げていく

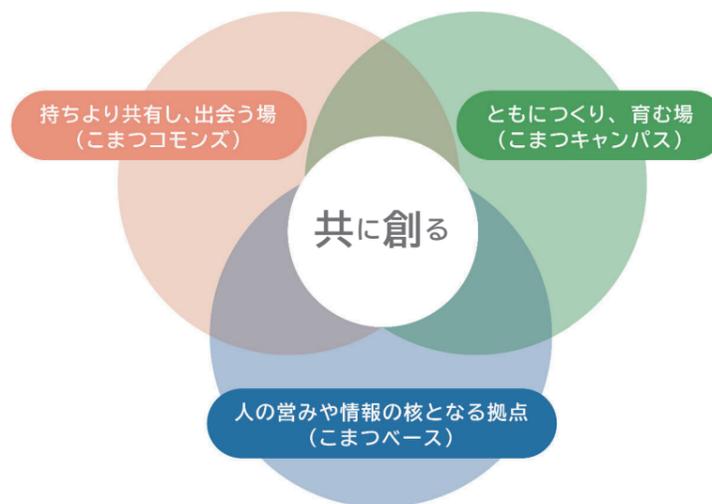
巡らす— 人・文化や歴史・情報・活動・経済等、様々な要素が地域において将来にわたって循環し、連鎖し続け、生き生きとしたよりよいまちのかたちや暮らしを持続的につくっていく

- 情報** 多様な形態、種類、内容の情報をその垣根を超えてつなぎ、新たな価値を生み出していく
- つながり** 多様な人、地域、文化など個々の特徴を活かしながら、関係性を強くし、つながりを生み出していく
- とき** まちの歴史のなかにある資源(ヒト・モノ・コト・場所)を掘り起こし、未来へつないでいく

未来型図書館の3つのコンセプト

ビジョン実現のための具体的構想をコンセプトとして、以下の3点に整理しました。相互に作用し融合している関係を3つのコンセプトで表しています。互いに重なり合い、補い合いながら各要素が持つ役割

を発揮することでビジョンの実現を目指します。また、3つの要素が重なり合った中心には「ともにつくる図書館をつくる」のテーマのもと、「共に創る」を据えています。



人の営みや情報の核となる拠点 (こまつベース)

情報が垣根を超えてつながり、集約された拠点となります。地域資源(ヒト・モノ・コト・場所)の個々の特徴を活かしながら結びつけ、編集して活かしていくまちの核としての役割を持ちます。

持ちより共有し、出会う場 (こまつコモンズ)

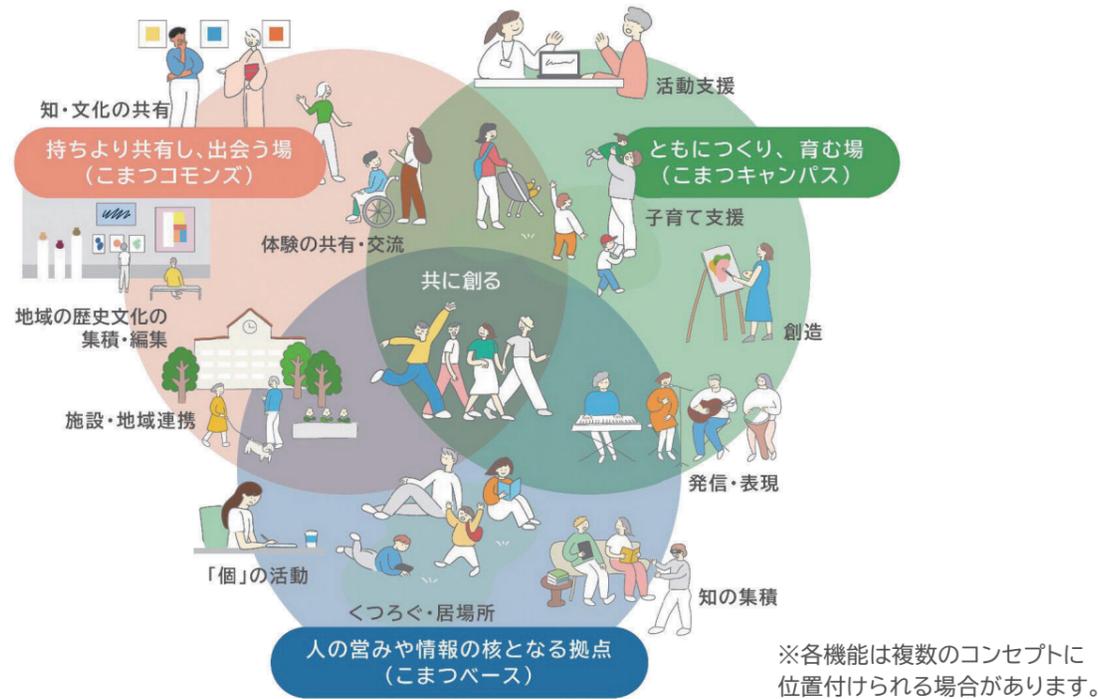
人々が、得意なことや悩み等、様々なことを持ち寄り共有する場です。誰でも分け隔てなくそこに居ることができ、人が集まり出会うこと、やりたいことを支えていく場としての役割を持ちます。

ともにつくり、育む場 (こまつキャンパス)

多様な人が関わり合いながらつくり、人やまちを育てていく場です。ともに学び、ともにまちの未来を描いていく場としての役割を持ちます。

未来型図書館に必要と考えられる役割 (機能)

「知る」「学ぶ」「交流する」など様々な体験がどのようなものであるべきかという視点のもと検討を行い、未来型図書館において必要と考えられる役割 (機能) をまとめました。



事業手法に関する考え方

公共施設マネジメント計画においては、公共サービスの質を適切なコストで提供するため、施設の運営や整備にあたっては、民間のノウハウを最大限に活用できる仕組みである、指定管理者制度や民間委託、

PFI(民間資金等を活用した社会資本整備) など、公と民が連携したPPP(民間との協働による公共サービスの提供手法) の導入を推進することとしています。

これまでの取り組み

令和3年度 未来型図書館のあり方の調査研究

市民と共に考えニーズを把握

専門家による講演会や市民ワークショップの開催、子どもたちからの絵画作品の募集や市民アンケート、各種団体との意見交換などを通じて、未来型図書館づくりの機運を高めるとともに、その調査や研究の成果を「調査研究報告書」としてとりまとめました。

令和4年度 基本構想の策定

市民と共にビジョン・基本方針を具体化

有識者等による基本構想策定委員会や幅広い年代の方が参加した市民ワークショップ(つながるミーティング)を通じて、ビジョンや基本方針を定めました。また、図書館エディターや子ども司書の養成、専門家による講演会や大学との連携など多面的な取り組みを進めてきました。

立地候補エリアについて

老朽化や狭隘化等の課題を抱えている小松市立図書館(本館)の更新を念頭に、令和3年度に選定した7つの立地候補エリアについて、5つの観点から議論した結果、「芦城公園周辺」を最適な立地エリアに決定しました。



施設・蔵書規模に関する考え方

図書館を中心に多面的な機能を有する先行施設事例を参照し、施設規模は、次年度具体的な立地場所や事業手法の検討と併行して検討を進めていきます。蔵書規模については、蔵書数の拡充を図っていく必要がありますが、蔵書数の拡充のみが未来型図書館が捉える情報ではないことに留意する必要があります。

デジタルの活用

市民の図書館利用体験におけるデジタル化は、新たな価値創造の可能性を持っています。未来型図書館が、小松市民の「知る」を最大限に支えるために、多様なメディアのデジタル化を検討していきます。

事業推進スケジュール

令和5年度以降 総合プロジェクトとして推進

芦城公園周辺の公共施設マネジメント事業と一体的に推進
令和5年度に検討する具体的な立地場所や公共施設の集約・再編、機能の見直し、官民連携による事業手法等と併せて、事業スケジュールを検討し、未来型図書館の具現化を図っていきます。また、対話と活動のプラットフォーム「こまつリビングラボ(仮称)」を立ち上げ、市民と共に創る未来型図書館をさらに推進していきます。

